

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

(一財)全国地域情報化推進協会 御中

報告日 2021年1月15日

派遣決定番号

地域情報化アドバイザー制度活用報告書(1日目)

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	豊中市	代表者名	長内繁樹
担当者部署	創造改革課	連絡先電話番号	06-6858-2084
担当者役職	主査	担当者氏名	島田裕子
住所	5618501 大阪府豊中市中桜塚3-1-1		

1-2. 推薦団体(「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	市川 博之
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	<ul style="list-style-type: none"> 管理職向けのDX推進の気づきや意識改革につながる内容であった 緊急事態宣言もあり、当初対面でのグループワークを予定していたが、オンラインでのセミナー実施となった
アドバイザーへの要望事項	<ul style="list-style-type: none"> オンラインでのセミナー実施に、事務局が慣れていなかったため、次回もアドバイスいただきながら進めていきたい

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)	活動時間(分)
3-1. 活動	2021年1月13日	14時05分	15時30分		85
3-2. 派遣場所	会場名	豊中市役所		最寄駅	岡町駅
	所在地	豊中市中桜塚3-1-1		最寄駅からの交通手段	徒歩5分
	派遣形態	講演(オンライン)			

4. 報告書に関するAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可
------	--------------------------------------

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	人数
	職員	22人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	多くの職員にDX推進にあたっての意識を変革してもらい、新たな取り組みを行える風土としたい	
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	「新たな価値創造と変革を実現できる」「データ活用によって課題解決できる」人材の育成、風土の醸成	
アドバイザーに支援を受けた内容(具体的にご記入下さい)	DXセミナー(なぜDXが進まないのか?サービスデザイン思考とは?リーダーとして必要なことは?など)	
支援を受け改善又は解決された内容(具体的にご記入下さい)	ワークをとおして、グループで考えることで、一人ひとりが必要なこと、豊中市として必要なことを見える化できた	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	<input checked="" type="radio"/> その他
	職員の意識改革・気づきにつながった(別紙、写真のとおり)	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容(具体的にご記入ください)	今回は限られた職員だったので、多くの職員に参加してもらうよう呼び掛けが必要	

アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 ・アンケート回収中	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
事業の最終的な目指す姿	・「新たな価値創造と変革を実現できる」「データ活用によって課題解決できる」人材の育成、風土の醸成	

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

The image contains a central handwritten note titled "ToYoNAKA DXセミナー" dated 2021/1/13. The main message is "こうすれば豊中はDXに成功する!" (If you do this, Toyonaka will succeed in DX!). The notes are organized into several sections:

- 「クワンランド」**: Notes include "サービスを考えると新しい仕組みが入ってくるがチェックする" and "現状にとらわれないサービスにたどり着くか考える時間を増やす". A red box highlights "今の風土を壊す".
- 「Aグループ」**: Notes include "知識・スキルの変革" and "知識・経験を伝えながら柔軟な発想を促す". A red box highlights "気づきを促す".
- 「Bグループ」**: Notes include "柔軟な発想を促す" and "柔軟な発想を促す". A red box highlights "柔軟な発想を促す".
- 「病院」**: Notes include "反対する意見をあえて出し、見合わせることで今の思考を壊し新しい職員を育成する" and "病棟スタッフの意識を高めることで自ら考える職員育成". A red box highlights "言ってもおこりない環境".
- その他**: Notes include "4人で必ずDX研修をすすめる" and "チャレンジ、変革を1人がやるから進めることで意識改革スル".

The photograph on the right shows a presentation screen with a table of data and a video call interface. The table has columns for "グループ", "課題", and "対応". The video call interface shows several participants. A yellow banner at the bottom of the screen reads "物をはさまない! 飲み物/食べ物をこぼさず".